

免疫抑制薬投与中の節リウマチ・膠原病患者様における B 型肝炎ウイルス再活性化に関する観察研究参加のお願い

B 型肝炎ウイルス（HBV）は、免疫抑制薬投与中に再活性化して重症肝炎を起こすことが知られ、HBV キャリアー、あるいは感染歴があり免疫抑制治療を行う関節リウマチ・膠原病患者様においては、定期的にウイルス量の測定を行うことが必要になっています。当院では、全国の赤十字病院リウマチ診療施設の専門医による「関節リウマチ・膠原病患者の HBV 再活性化に関する観察研究」に参加しております。これは、該当する患者様において HBV ウイルス量や抗体価と投与薬剤や関節リウマチの活動性に関する情報を定期的に、研究事務局に約 5 年間報告して解析するというものです。実施にあたっては、全ての患者様の情報は匿名化され、個人情報 は厳重に保護されます。関節リウマチや他の膠原病治療における副作用の頻度や実態解明のために、意義の深い研究ですので、患者様のご理解とご協力をお願いします。なお、この研究に関してご不明の点があれば、主治医あるいは他の担当スタッフに遠慮なくお尋ねください。

日本赤十字社医療センター アレルギー・リウマチ科